

心の輪を広げる体験作文 中学生部門 優秀賞

「自立への一歩」

相模原市立相陽中学校 一年 井川 亮太郎

いがわ りょうたろう

ぼくは小学校六年生の頃から、中学生になったら大好きな電車に乗れるのがとても楽しみでした。中学生になったらぼくの大好きなデイスービスに中学校が終わった後、電車で行けることもあわせて楽しみでした。小学校六年生のときに、まずは小学校からデイスービスまで歩いていく練習をデイスービスのスタッフの人としました。そのとき、歩いていくのも楽しいと思いました。そして中学校が休校中、お父さんと家から中学校まで歩いて行き、さらに下溝駅まで行って電車に乗り原当麻駅まで行く練習をしました。小学校の時、お父さんに大好きな電車に乗ってたくさん散歩に連れて行ってもらっていたので、今度は一人でちゃんと乗れる自信が持てました。

六月に、中学校が再開されました。そして初めて中学校下校後に電車を使ってデイスービスに行く日ドキドキ感と楽しみでいっぱいでした。お母さんに「もしも困ったことや心配なことがあった時は一度、家に帰っておいで。」と言われました。朝、中学校に着いたとき、デイスービスに行くことを先生に報告してスイカカードを預けました。そして帰りに「井川 亮太郎です。きちょう品を受け取りました。ありがとうございます。」と言って大事にスイカカードをポケットにしまいました。下溝駅まではあふりね級の友だちや先ぱいと一緒で、たくさんお話ができてとても安心でした。大好きな川の流れも見ながら行けたのでとても楽しかったです。ひとりで乗っ

た電車では、ワクワクした気持ちでした。原当麻駅からデイスアービスまで歩いて十五分で着きました。暑かったけど、自分一人で行けてすごいなと、自信になりました。スタッフの方に「おー、よく一人でこれだね、すごいね。」と言ってもらいとてもうれしい気持ちになりました。別の日に、ぼくの帰りのしたくが遅い時はあふりね級の友だちが待っていてくれたり、大雨の日は原当麻駅でデイスアービスの人が待っていてくれたりして感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今では電車に乗ってデイスアービスに行くのもだんだん慣れて、乗っている時はいつもワクワク感でいっぱいです。そしているんならたちに助けてもらっていることに気付いて感謝の気持ちをたくさん感じています。ぼくが先ぱいになったら困っている人を助けてあげられるようになりたいです。